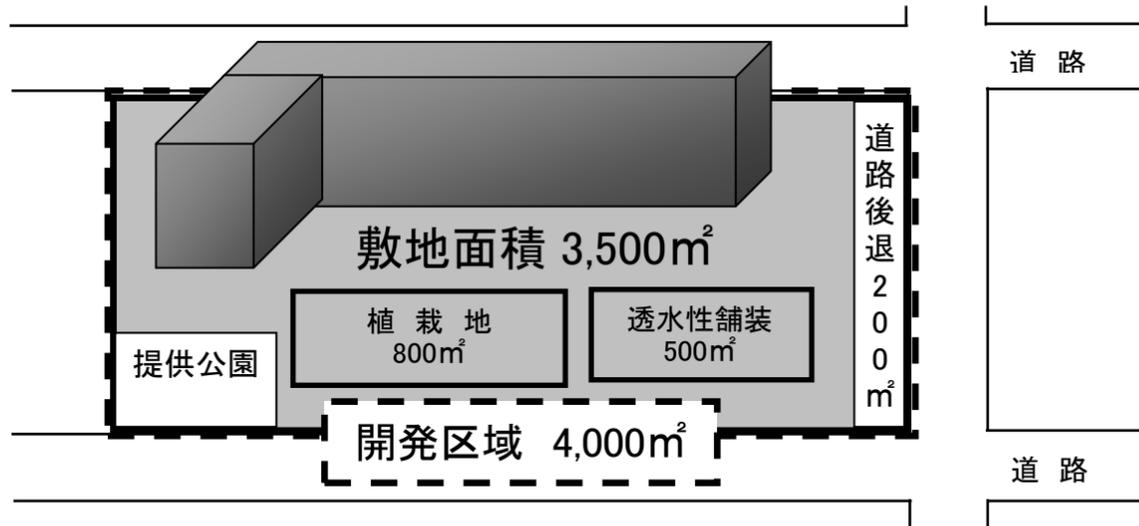


(記入例) 雨水流出抑制施設設置計画書

(共同住宅の場合)



第90号様式(別表第2関係) 表面

雨水流出抑制施設設置計画書

提出年月日 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日

事業者	名称等	(株)○○○○ 代表取締役○○ ○○	担当	○○ ○○
	住所	練馬区○○町○-○-○	電話	(○○○○)○○○○
代理者	名称等	○○○○株式会社	担当	○○ ○○
	住所	練馬区○○町○-○-○	電話	(○○○○)○○○○
事業内容	名称等	○○新築工事	用途	共同住宅
	所在地	練馬区 豊玉北○-○-○ 住居表示を記入		
	着手予定	平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日	完了予定	平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

開発区域	①	4000.00	m ²
------	---	---------	----------------

まちづくり条例の開発区域面積を記入します。
※宅地開発係にご確認下さい。

敷地面積計	②	3500.00	m ²
-------	---	---------	----------------

道路、公園等の面積は除きます。
※提供公園は、公園係との協議が必要です。
4,000m²-300m²-200m²=3,500m²

浸透施設の設置に適さない区域を (よう壁上部、急傾斜地等)	<input type="checkbox"/> 含む
	<input checked="" type="checkbox"/> 含まない

てびき (P9) を参照して下さい。

1 雨水流出抑制必要量の算出

(1) 単位対策量

※河川流域図は、てびき (P10) を参照

単位対策量(m ³ /m ²)	開発区域	白子川流域	石神井川流域	神田川流域
事業者 (特定事業者を除く。)	500平方メートル以上		0.06	
特定事業者	300平方メートル以上		0.06	
	1ヘクタール以上	0.095		

特定事業者とは、国・地方公共団体、公有地における事業者、公社、公団等を指します。

(2) 当該事業における雨水流出抑制必要量の算出

	数量	備考
単位対策量	③ 0.06 m ³ /m ²	上記表を参照
雨水流出抑制必要量	④=②×③ 210.0 m ³	小数点以下第二位切捨

雨水流出抑制必要量は、敷地面積3500m²×0.06m³/m²=210.0m³ です。
210.0m³を上回るように施設の計画をします。(裏面へ)

(記入例) 雨水流出抑制施設設置計画書

(共同住宅の場合)

農地・樹林地・草地については、別途ご相談下さい。
※砂利敷き、未舗装部分は、浸透能力が低いので算入できません。

第90号様式(別表第2関係) 裏面
2 雨水流出抑制施設による対策量
(1) 浸透域による対策量

浸透域	浸透能力 小数点以下第三位切捨 ⑤	面積 小数点以下第二位切捨 ⑥	対策(浸透)量 小数点以下第二位切捨 ⑤×⑥
農地	0.13	800.0	40.0
樹林地	0.06		
芝地・植栽地	0.05		
草地	0.02		
小計		⑦	40.0

植栽地の面積は緑化計画における緑被面積を可とします。
※屋上緑化は除く。

透水性舗装の貯留能力は舗装構造により異なります。
※てびき(P8)参照

(2) 透水性舗装による対策量

透水性舗装	貯留能力 小数点以下第三位切捨 ⑧	面積 小数点以下第二位切捨 ⑨	対策(貯留)量 小数点以下第二位切捨 ⑧×⑨
透水性舗装(I)	0.02	500.0	25.0
透水性舗装(II)	0.05		
小計		⑩	25.0

(3) 浸透施設による対策量 定型外の浸透施設を設置する場合 ⇒ 浸透施設能力計算書を作成
複数の専用住宅等を建築する場合 ⇒ 浸透トレンチ計算書を作成

浸透施設	形状		貯留・浸透能力 小数点以下第三位切捨 ⑪	数量		対策(浸透)量 小数点以下第二位切捨 ⑪×⑫
	型番			⑬	⑭	
浸透ます	PI	φ150 砕石幅300	0.25	20	個	12.2
	PII	φ200 砕石幅400	0.33			
	PIII	φ250 砕石幅500	0.51			
	PIV	φ300 砕石幅600	0.61			
	PV	φ350 砕石幅700	0.86			
	PVI	φ400 砕石幅800	0.99			
	PVII	φ500 砕石幅1000	1.71			
浸透トレンチ	TII	φ100 砕石幅300 高さ350	0.28	30.0	m	14.7
	TIII	φ125 砕石幅350 高さ400	0.32			
	TIV	φ150 砕石幅400 高さ450	0.36			
	TV	φ200 砕石幅550 高さ600	0.49			
	TVI	φ200 砕石幅750 高さ750	0.65			
		φ200 砕石幅1000 高さ1050	0.96			
浸透側溝	U型溝300×300 砕石幅600	0.56	50.0	3	48.0	
小計				⑬		126.2

浸透施設は、既製品を使用することもできます。
製品の貯留・浸透能力がわかる資料を添付して下さい。

※定型の浸透施設構造図は、てびき(P7)参照

定型外の浸透施設を使用する場合、第2号様式を使用し、貯留・浸透能力を算出して下さい。

(4) 貯留施設による対策量 貯留施設を設置する場合 ⇒ 貯留施設放流量計算書を作成

貯留施設	種別 (地下貯留または表面貯留)	排水方法 (ポンプアップまたはオリフィス)	貯留面積 小数点以下第三位切捨 ⑭	h:貯留水深 小数点以下第三位切捨 ⑮	対策(貯留)量 小数点以下第二位切捨 ⑭×⑮
貯留施設	地下貯留	オリフィス	50.00	0.50	25.0
小計					⑯

貯留施設を計画する場合、貯留施設放流量計算書(第3号様式)を作成して下さい。

雨水利用槽と併用する場合、雨水利用分は対策(貯留)量に算入できません。

対策量の合計

⑰ = ⑦ + ⑩ + ⑬ + ⑯ = 216.2 m³

3 対策量の検証

対策量の合計(⑰) ≥ 雨水流出抑制必要量(④)

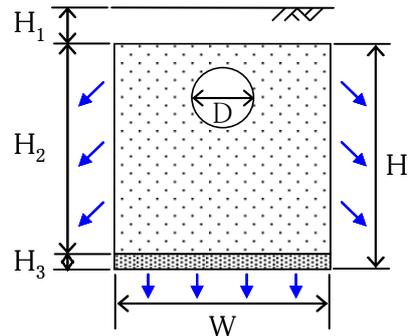
成立

対策量の合計(⑰)が、雨水流出抑制必要量(④)を上回るように計画して下さい。
216.2m³ ≥ 210.0m³ 成立

第2号様式(第8条関係) 裏面

浸透施設能力計算書 (定型外の浸透トレンチを使用する場合)

浸透トレンチ



有孔管径 D	200	mm
土 被り H ₁	250	mm
碎石高さ H ₂	1000	mm
砂 高 さ H ₃	50	mm
設計水頭 H	1050	mm ≤ 1.5m
碎石空隙率	35%	
施設幅 W	1000	mm ≤ 1.5m

【単位浸透量】係 数 a = 3.093
 b = 1.34W + 0.677 = 2.02
 比 浸 透 量 K = aH + b = 5.26
 飽和透水係数 f = 0.14
 影 響 係 数 C = 0.81
 単位浸透量 Q = K × f × C = **0.60** m³/(m·hr)・・・①

【空隙貯留量】 碎石空隙量 V₁ = (W × H₂ - D²/4 × π) × 空隙率 = 0.34 m³/m
 有孔管内空量 V₂ = D²/4 × π = 0.03 m³/m
 空隙貯留量 V = V₁ + V₂ = **0.37** m³/m・・・②

単位貯留・浸透量 = ①単位浸透量 + ②空隙貯留量 = **0.96** m³/(m·hr)

第90号様式(裏面)
浸透能力の欄に記入

矩形オリフィスにより放流する場合

第4号様式(第8条関係)

貯留施設放流量計算書(貯留施設を設置する場合)

河川流域図は、てびき(P11)を参照

1 指導基準

対象流域	白子川	石神井川	神田川
q: 放流量(mm/hr)	16.5	18.0	24.0

指導基準の放流量を換算

$$\begin{aligned} \text{放流量 } Q1 &= 1/3600 \times 1/1000 \times q \times [\text{②}: \text{敷地面積計 } m^2] \\ &= 1/3600 \times 1/1000 \times 24.0 \times 3500.00 \\ &= 0.023 \text{ m}^3/s \end{aligned}$$

[小数点以下4位を切捨、3位まで表示する]

2 設計上の放流量の算出

(1) ポンプによる排水の場合

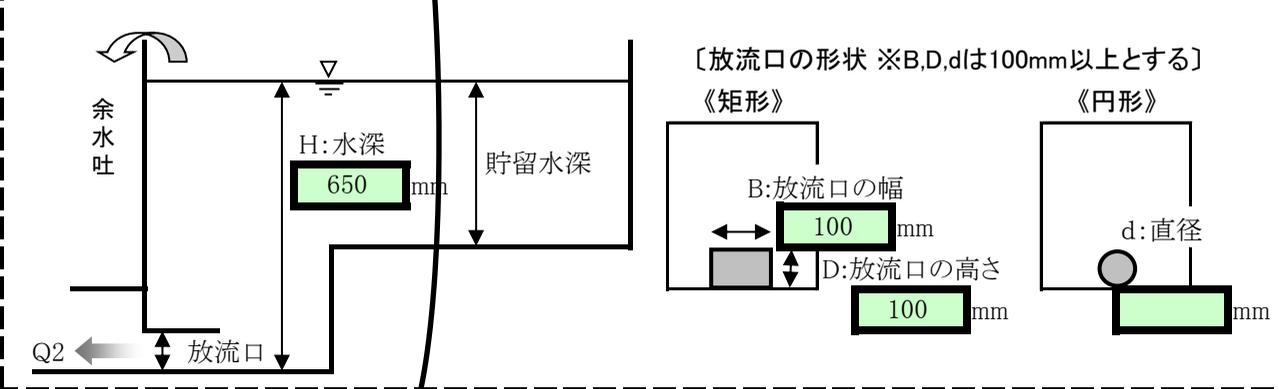
$$\text{放流量 } Q2 = \text{ [] } \text{ m}^3/s \quad (\ast 1 \text{リットル}/\text{min} = 1.66 \times 10^{-5} \text{ m}^3/s)$$

[小数点以下4位を切捨、3位まで表示する]

※排水能力の判る資料の添付をお願いします。

(2) オリフィスの場合

〔オリフィスの構造〕



《矩形》

$$\begin{aligned} \text{放流量 } Q2 &= 2.6563 \times B \times D \times \sqrt{H - D / 2} \\ &= 2.6563 \times 0.100 \times 0.100 \times \sqrt{0.650 - 0.100 / 2} \\ &= 0.020 \text{ m}^3/s \end{aligned}$$

[小数点以下4位を切捨、3位まで表示する]

《円形》

$$\begin{aligned} \text{放流量 } Q2 &= 2.0852 \times d \times d \times \sqrt{H - d / 2} \\ &= 2.0852 \times \text{ [] } \times \text{ [] } \times \sqrt{\text{ [] } - \text{ [] } / 2} \\ &= \text{ [] } \text{ m}^3/s \end{aligned}$$

[小数点以下4位を切捨、3位まで表示する]

3 放流量の検証

$$Q1(\text{指導基準の放流量}) \geq Q2(\text{設計上の放流量})$$

成立

※ 放流口の形状が、最低基準の100mm×100mmを使用している場合は、不成立でも止むを得ず他の場合は、必ず成立となるようにオリフィスまたはポンプの設計をお願いします。

設計上の放流量が、指導基準の放流量以下となるように計画して下さい。
0.023m³ ≥ 0.020m³ 成立